

# 宮城県の東日本大震災復興視察を終えて

一般社団法人 全国土木施工管理技士会連合会  
猪熊 明

2015年8月25、26日に、全国土木施工管理技士会連合会主催で谷口会長を団長とした28名で、宮城県内の被災地の復興事業の視察を行いました。ルートは3年前と同じで、南の仙台市から、石巻市、南三陸町と北上し、気仙沼市を視察しました。

仙台市若林地区（写真1）は、開けた砂浜の海岸を持つ平野で津波で多くの死者がでました。ここでは「粘り強い海岸堤防」（図1）の整備が大規模に行われ進捗していました。

石巻市では、3年前盛んに稼働していた震災がれき処理の工場は役目を終え撤去され更地になっていました。流されてきた自動車の火災で学校が延焼した門脇地区で

は、盛り土、公営住宅等の整備が区画整理方式で進められていました。その後多数の小学生がなくなった大川小学校を見て、避難準備の大切さに思いをはせました。

南三陸町では、避難放送を最後まで行い殉職した女性職員のいた防災庁舎が震災遺構として20年間保存されることとなりました。現地では、しかし、その周囲を盛り土でかさ上げし住居地区とする工事が進められており、庁舎のすぐそこまで盛り土となっていました（写真2）。

気仙沼市では3年前驚かされた陸上の船は解体され跡形もありません。今は盛り土で地盤を上げたうえで区画整理を行っています（写真3）。



写真1 仙台市 海岸堤防工事現場の視察団一行

総じて計画の合意が得やすい工事は進捗していますが、街中のかさ上げ工事などはスタートするまでに時間を要しているよう

です。それでも同日の新聞で報道された中東ガザの戦災復興が進まないことを見ると日本の国の力をも実感した次第です。

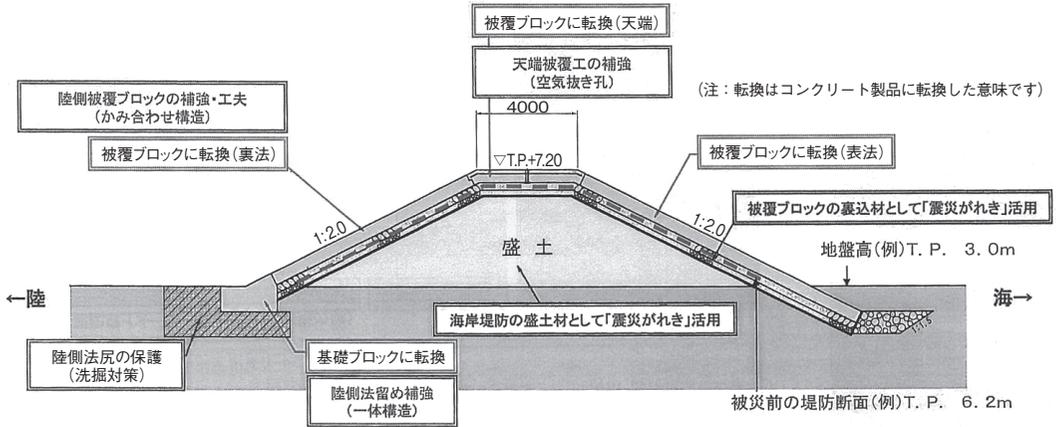
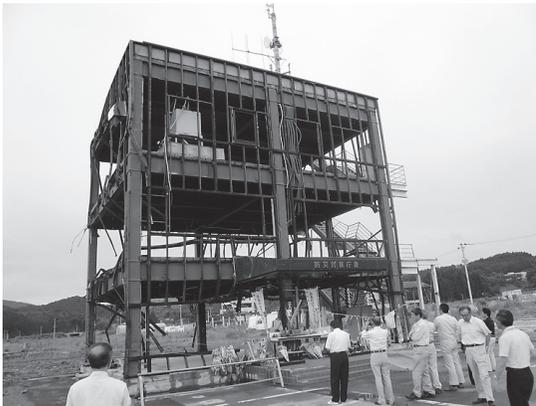


図1 コンクリート製品と震災瓦礫を使用した粘り強い堤防断面図



(3年前)



(今回)

写真2 南三陸町 防災庁舎



(3年前)



(今回)

写真3 気仙沼市 船の撤去と盛り土区画整理